

<b>授業科目名</b>	教育と日本の伝統文化入門(2100144)		
<b>時間割名</b>	教育と日本の伝統文化入門(32103)		
<b>時間割担当</b>	梶田 勲一 渡邊規矩郎		
<b>実施期</b>	後期	<b>単位数</b>	2 必修
<b>曜日・時限</b>	水・2		

### 授業の目標・概要

戦後の学校教育では、日本の伝統文化について学ぶことが少なかった。教育基本法の改正で、伝統文化を尊重する教育が復活した。歴史・伝統文化は私たちの父祖の足跡であり、これを継承・発展させることが今に生きる者の責務である。授業では、日本の歴史を民族の生命の流れとして受けとめ、それを縦糸にしながら、歴史に裏打ちされた伝統文化の基礎基本の知識を学び、歴史・伝統文化の橋渡し、継承者としての自覚を育てる。同時に、学校教育法の「我が国と郷土の現状と歴史について、正しい理解に導き、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養うとともに、進んで外国の文化の理解を通じて、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと」（第21条の3）を踏まえ、周辺教科との関連を図る。

### 学習の到達目標

日本の伝統文化の成立と歴史的展開を理解する。  
 伝統文化について自らの言葉で説明できるようになる。  
 文化の創造と受容にいかなる人々がかかわってきたのかを理解する。  
 伝統文化の継承の意義を考える。

### 授業方法・形式

- ・オムニバス方式で、前半7回を梶田、後半8回を渡邊が主として担当する。
- ・前半7回は、「和魂の再興」を願い、独自の「日本人論」を提唱するとともに、人間存在そのものを洞察する「人間教育」の重要性を解説し、日本の伝統文化の継承者としての自覚を育成する。
- ・後半は、日本の歴史をひもときながら、民族としての特徴、文化の独自性を明らかにするとともに、歴史に裏打ちされた伝統文化の基礎基本について明らかにする。
- ・それぞれの学習テーマに対して、教科書や補助教材、プリント・資料等を活用しながら講義する。
- ・必要に応じて、取り上げるテーマに関するディスカッションを行う。

### 授業計画

- 第1回 はじめに：日本人は日本を忘れていないか 複眼思考のできる真の日本人に
- 第2回 和 の心 和と同調とは違う、個が確立されてこそ 和 が達成される
- 第3回 明き心・直き心、憤み 自分自身に対する誠実さと欲望を制するという価値観
- 第4回 冷暖自知 体験を経験に昇華すること、実感・納得・本音に根ざした言葉の力
- 第5回 世間虚仮、不審の花 譲ることのできない真実の世界、「信」から「覚」への転換
- 第6回 先人に学ぶ④ 本居宣長『初山踏』、貝原益軒『和俗童子訓』に見る学びの進め方、子育て法
- 第7回 先人に学ぶ⑤ 山本常朝『葉隠』の武士道精神、熊沢蕃山『集義和書』に学ぶ誠実な生き方
- 第8回 国の起源・紀元 神話、建国の理想、自然観・死生観など古代日本人の考え方を知る
- 第9回 記紀や風土記の編纂 それらの成立とそこに盛られた古代人のロマン・思いを理解する
- 第10回 末法思想と神国思想 天皇親政、貴族と武家、禅、庭園など、中世における精神生活を学ぶ
- 第11回 能、茶道、俳諧 世阿弥、利休、芭蕉、歌舞伎などに貫道するものを理解する
- 第12回 儒学と水戸学・崎門学・国学、武士道 山鹿素行、水戸光圀、山崎闇斎らの思想を知る
- 第13回 明治維新、欧化主義と教育勅語 吉田松陰、橋本景岳、西郷隆盛などの理想と悲劇を学ぶ
- 第14回 敗戦とそれに伴う占領と歴史・伝統文化の断絶、天皇のまつりごと・宮中祭祀などを理解する
- 第15回 おわりに：温故知新・彰往考来、伝統と革新の意味を深く考えながら授業を総括する

### 成績評価の基準

毎回の授業中に行う小レポートを通して授業に対する理解度をチェック（30%）、また、課題レポートを中心に個別的・発展的学習の状況や考え方の深まりなどを評価（30%）、さらに学期末テストにおいて総合的な理解を確認する（40%）。

### 授業時間外の課題

教科書・参考書を熟読する（その際、現代人の価値観で歴史的の事象を捉えないように留意する）。  
 歴史上の人物、先哲・先人を通して具体的に伝統文化を学ぶように心がける。  
 歴史・伝統文化を学ぶことは、自らのルーツ、立ち位置を知ることであることを自覚的に意識する。

### メッセージ

私たちは、縁あって日本に生まれてきた。しかし、戦後の学校教育においては、日本の伝統文化についてほとんど学ぶことがなかった。ここで初めて学ぶことは、初めて学ぶこと、初めて出会う歴史上の人物ばかりだと思う。自分の父祖たちが歩んだ道を振り返っていると気持ちで、心を通わせながら学んでいけば、歴史のはるか彼方から声が聞こえてくるに違いない。先人、現代人、後人の声に静かに耳を聴け、我が国の今に生きる自分自身の存在に問いかける学びをしてほしい。師弟同行、共に謙虚に愉快地学んでいきましょう。

### 教材・教科書

梶田勲一著『和魂ルネッサンス』あすろ出版

## 参考書

ドナルド・キーン著『果てしなく美しい日本』講談社学術文庫、平泉澄著『物語日本史①②③』講談社学術文庫、所功『「国民の祝日」の由来がわかる小事典』PHP新書